

1月28日
現在

今年もいよいよ入学試験のシー

ている。当校でも中学校百四十名、高等学校若くは十名採用することとなり、中学校入學試験は二月九日から行われ、中学校入學願書受付は二月十一日まで、高等学校編入試験は二月二日から三日まで行われる。なお中学校入學願書受付は一月十三日より來たる三月十一日まで、又高等学校編入願書受付は一月十九日より二十四日まで行われ、高校編入希望者は九十六人である。又中学校入學希望者数は二月二十九日現在で三百八十四人で、入學競争率は昨今約一・七倍で、入學願書受付数、競争率共に昨年を上まわるのである。

別表に記載してあるように、入學願書交付第一日目で九十七名の入學希望者が來られた。入學希望者の中には非常に熱心な方が居られ、入學願書を提出するために開門前の午前六時頃から待つて居られたという事実もあつた。これは非常に嬉しいことである。これは洛星が立派な学校であると、多くのの方々が認めておられることを強く示すものである。

先輩が長いようで短い一年一年を足で踏みかため、洛星の發展と向上に努力し、七年間という浅

写真説明 真剣な気分にただよう願書受付風景

日	入学 願書数	日	入学 願書数
12	97	20	27
13	19	21	18
14	28	22	17
16	33	23	14
17	31	24	23
19	22	合計	383

新しい年を迎えた。
正月気分が抜け切れなかつた諸君達の生活も元の軌道に戻つたことと思う。私達は、
この新しい年に新しい期待をかけたといふ。

しかするとこの新聞が発行になる頃にはそれが表面化しているかも知れない段階に達しているのである。私達は明るい政治を、そして明るい社会が実現されることを期待しているのであるが、現実にはそれと凡そ縁の遠いことがくり返されている。即ち議會主義を重んじているこの日本に於て、執政者達が政治をきておき、つまらない派閥闘争や昨年の憲職法の改正の時に演じたような全く議會制度を

を持つてゐる國民がその基礎であり、世論の力で政治を推進させているのだというのを忘れてはならないからである。

世論の力というものが、どのような力を持つてゐるかというところは憲職法改正の際に國民が示してくれた通りであり、國民は實明であるということが政府は忘れてはならぬ一事実として認識しなければならぬと思うのである。

今年の政治課題はなんといつて

社会建設への期待

の安定を延び出来ない国がどうしてそのようなことを口にする資格があるのだろうか。

一方社会面に於ても昨年出された厚生白書によれば日本の前途は余りにも暗く感ずるのである。といふのは、日本の貧困者は全国で約一千万と推定され、それは零細農家、自営業、低賃金労働者、就業形態の不安定な日雇いや家内労働者、所得能力を失つた制限された老令、母子寡疾者などで占められており、国民経済の発展に取り残されたまま一般世帯との所得格差はますます広がり社会不安は増大して来ている。その上生産年齢人口は今後年々激増するのに設備の自動化、近代化で大企業生産部門への雇用吸収は失して望みをかけることが出来ないうという現状に達しているのである。だからこのままで行けば厚生白書も相續しているように生産年齢人口がピー

の期待」

考えられるのである。この危機を打開する道は社会保障制度の充実とその方策を求める以外には良き道が見当たらない。私達は今生んでいるこの日本の国が明るい、住みよい福祉国家として発展して行くことに期待をかけたのである。

社会福祉国家建設には莫大な予算も必要であり実現させることは仲々容易なことではない。しかし世論の力が強く湧き起り、国民の誰もが努力するときその実現が一步、一步と近づくに違いない。

今年もその実現への前進性があつて然るべきである。そしてかくの如き歩みが続けられて行く限り昭和四十年に來るといふ危機も回避出来、明るい社会が実現されることを信じて疑わない。

私は次の日本を背負つて立つ諸君達に將來の日本がどのような状態になるか、ということを確認し、又それを打開する政治の在り方をはつきりと把握して貰いたいと思つて。そしてよりよい平和な民主主義國家を確立するにない年として成長して行かんとを望みたい。

自由なクラブを計画

自由なクラブを

計画

これは「生徒会主催……」という形で、色々のレクリエーションを行つたり、スポーツ用品を常備し、同時にでも自由に使えるようにしようという意図だ。

実際、二十六、二十八、九、三十日の四日間、サッカーのクラス対抗試合をすることに決つた。一方、役員中、第二のハリキリ石井君は、生徒達の掃除の様子のタラシなさまをみて、「掃除評定」を付けることに決議した。生徒諸君の

「豊富な計画」に意気盛ん

後期の執行委員会は前期に比べて多少活発になつて来たようだ。その原因を探つてみると執行委員

コンサートを催している。個人で映画を見る時は補導部の許可を得なければならないのでまどろ、

入部希望者は
H・I・Bの
沢口まで

諸君の考え、意見を投書して下さい。但し名前を明記すること。

社会科担当 正木三雄

